障害学会第16回京都大会

「発話困難な重度身体障がい者」の文章作成における実態

――天畠大輔を事例として

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学　天畠大輔

先行研究の検討
重度身体障がい者の自己決定

- 介助者を手足と見る考え方を基本に置きつつも、介助が障がい者と介助者の関係性や**介助者の介入によって成り立っている**ことを前提とした（前田 2006）
- **「むしろ決定しないことの快というものがある」**（立岩 1999）
- 「決定は単独の孤立した主体によってなされるのではなく、**障がい者と介助者の『アレンジメント』**のなかで暫時的に決定されるものである」（星加 2001）
- 「この介助者には頼める、この介助者には頼めない」という判断がなされることがある（前田2009）
- 「いちいち言葉にせずとも望ましい介助が実現するというあり方」を**「自動の手足」**と名付けた（石島 2016）
- 「あたかも自分の身体の一部であると感じられるということは、ある意味で自他の区別が曖昧になるということだ」（星加 2012）
- 「介助者は障害者という『人間』と『世界』を媒介する透明なメディアなのではなく、“具体的な身体を携えた不透明なメディア”なのだ」（前田2009）
- **「介助者によって『自分』が変わってしまうという現実」**（油田2019）
- **「What to do」（何をするか）は障がい者が占有する領域で、「How to do」（いかにするか）は介助者の介入が不可避であり、そこにコンフリクトが生じる（岡原 1990=2012）**
- **「How to do」 だけではなく「What to do 」においても介助者の介入を排した形は難しい（前田 2009）**

星加良司、2001、「自立と自己決定――障害者の自立生活運動における『自己決定』の排他性」『ソシオロゴス』25: 160-175.
――――、2012、「当事者をめぐる揺らぎ――『当事者主権』を再考する」『支援』2:10－28.
石島健太郎、2016、「手足としての介助者像とその社会的帰結――神経難病療養における障害者と介助者の関係の検討」東京大学大学院人文社会系研究科2016年度博士論文.
前田拓也、2006、「介助者のリアリティへ――障害者の自己決定/介入する他者」『社会学評論』57(3): 456-475.
――――、2009、『介助現場の社会学――身体障害者の自立生活と介助者のリアリティ』生活書院
岡原正幸、 1990=2012、「コンフリクトへの自由――介助関係の模索」安積ほか『生の技法 第3版』生活書院、 191-231.
立岩真也、1999、「自己決定する自立――なにより、でないが、とても、大切なもの」石川准・長瀬修編『障害学への招待』明石書店、79-107.
油田優衣、2019、「強迫的・排他的な理想としての〈強い障害者像〉――介助者との関係における「私」の体験から」『当事者研究をはじめよう』金剛出版、27-40.

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

研究の背景

- 14歳の時に低酸素脳症によって、四肢マヒ・発話障がい・視覚障がい・嚥下障がいという、重度重複障がいを負った。「発話困難な重度身体障がい者」[1] である。
- 現在は「あ、か、さ、た、な話法」を用いて意思を伝えている。
- 通訳介助が必要な日々のコミュニケーションにおいて、「他者の介入を受けた自己決定」があることを感じている。

特に**文章作成**の場面において、論者：天畠大輔（以下、論者）の自己決定を**「What to do」と「How to do」の概念だけ**で読み解くことができない領域があることが見えてきた。

1)「発話困難な重度身体障がい者」の定義は以下の4点である。四肢麻痺であること、重度の言語障がいを伴うこと、24時間介護が必要であること、コミュニケーションのアウトプットを自力で行うことができないこと、知的障がいを重複していないことである。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

研究の問い・目的

- 問い

「発話困難な重度身体障がい者」である論者の文章作成の実態とはいかなるものか？

- 目的

論者の文章作成過程における介助者との「あ、か、さ、た、な話法」を用いた相互行為を詳細に読み解くことで、「発話困難な重度身体障がい者」である論者の自己決定を概念的に分析すること。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

調査目的

主に「What to do」と「How to do」をキーワードにしつつも、補助概念として「戦略的誘導」、「解釈的質問」、「提案」を用いて分析することで、4名の通訳者が「先読み」を通して、どのように論者の自己決定に介入してるのかを明らかにする。

- 調査で明らかにしたい**「What to do」**と**「How to do」**は以下の位相がある。

「なにをするか」=知人の大学教授「R.G」からのメールに返信し、店を伝えること

「いかにするか」=論者の意思を反映させながら、なるべく早くメール文面を作成すること

「何を書くか」= 「日程」や「店の名称」など、メールの返信内容に盛り込む項目

「どのように書くか」=上記の項目を基に文章化されたメール文面およびその作成過程

- 補助概念とは、論者と通訳者の働きかけの特徴を分類したものである。

①戦略的誘導	論者による言葉を導き出すための意図的な誘導
②解釈的質問	通訳者による自身の解釈で正しいかを確認する質問
③提案	通訳者による論者の自己決定に対する選択肢の提案

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

研究方法

- 論者とその通訳者4名を対象に、知人の大学教授「R.G」から来たアドレス変更メールに対する架空の返信場面を設定し、その様子を観察した。その後、各介助者に対して、介助歴や調査内容に関するインタビューを行った。
- 通訳者は匿名化し表記はa～dを使用。
- 調査実施の際は、インフォームド・コンセントに関する事項を説明。
- 論者と各通訳者のメール返信作業過程のコミュニケーションを整理し、相互の働きかけの特徴を以下のように分類した。

①戦略的誘導　②解釈的質問　③提案

調査の様子（右が論者、左が通訳者。メール確認後、論者の言葉を確認し、メール文面を作成する。）

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

調査――架空のメール文面

差出人：R.G.

件名：後藤です.

天畠様
後藤です。
ご無沙汰しております。
論文は進んでいますか？
さて、メールアドレスを変更しましたので、下記にお知らせします。
XXX0227@XXX.XXX
ご登録お願いします。
ところで、9月12日（月）～18日（日）まで仕事で東京に来ています。
三鷹駅近辺にも来るのですが、オススメのお店などありませんか？
良かったら一緒にご飯食べませんか？
私が三鷹に来るのは13日（火）～15日（木）なのですが、夜空いている日を教えて下さい。
お店は天畠さんの方で決めて下さい。
では、お返事をお待ちしております。

後藤

結果――通訳者a（経験年数10ヶ月）

21才・大学3年生・職歴なし

①戦略的誘導　②解釈的質問　③提案

▶　やり取り（所要時間：41分）

天畠：この後藤さん誰かaわかるかい？

a：僕も知らないですね！

論文は進んでいますかってことなんで、

天畠さんが大学院生であるとか、

あと何か論文を今書いてるっていうことを

知ってる人ですよね.

天畠：どこか良い場所決めてよ.

a：決めてよ？探して決めてよ？

三鷹で良いお店ですか？（中略）

今決めて？で、それをメールの文面に書く？

であってますか？あってる？はい.

天畠：（声を出す）

a：言いたいことある？前半？

あ、か、さ、た行のた、ち.「ち」？（中略）

「中華」？中華料理屋がいい？三鷹の中華料理屋

で良い場所を今探してってことですか？それで

あってますか？あってる？じゃあいまその店の

場所調べても良いですか？はい.

（介助者aパソコンで検索を始める）

三鷹の中華料理屋．ぐるなび、食べログで調べて

みますか？良い場所ありますかね？

▶　分析

・論者からの戦略的誘導が多く、介助者aは指示待ちが多かった。

・共有知識が少なく、人物特定に時間がかかった。

・何を書くか（What to do）への影響はほぼない。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――通訳者a（経験年数10ヶ月）

21才・大学3年生・職歴なし

件名：Re:後藤です.

後藤様

メール有り難うございます。
一つ確認なのですが、立命館大学院の後藤玲子先生でいらっしゃいますでしょうか？
そうであれば失礼致しました。
メールアドレスの件、了解致しました。

お食事の件ですが、こちらこそ是非お会いしてお食事したいです。
9月13日（火曜）の夜が空いております。
場所としては、三鷹駅付近にある元祖ハルピンという中華料理屋にしようとおもうのですが、
いかかでしょうか？
小籠包が人気のお店とのことです。

当日ですが、7時半に三鷹駅の改札口に来て頂けたらと思います。
御返信お待ちしております。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――通訳者ｂ（経験年数3ヶ月）

36才・大学院卒・宗教法人事務職8年

①戦略的誘導　②解釈的質問　③提案

▶　やり取り（所要時間：53分）

論者：アドレス帳.

ｂ：アドレス帳…．あ！後藤さんでてきま

した！後藤吉彦さん．専修大学人間科学部講師と、

あと後藤玲子先生、公共論ってありますが、どっ

ちかわかりますか？わかんない？後藤吉彦さんか、

後藤玲子さんか．アドレスも変わってるから、

わかんないですよね．どちらか聞きますか？

どちらの後藤先生か.

論者：イニシャル見て？

ｂ：（メールの差出人のイニシャルが）

R. G.だから後藤玲子先生ですね、きっと．（中略）

じゃ、後藤玲子先生と認識して返事をしますか？

大丈夫？

論者：（声を出す）

ｂ：言いたいことがある？それでいいよ？

いい？じゃあ大さんは後藤玲子先生って、わかっ

てたってことですね？じゃ、それで認識して返事

をしますよ.

ｂ：携帯、大さんの携帯番号を書いて良い

ですか？いいですか？（中略）

ｂ：大さん、そこ予算1000円くらいでしょ？

電話して聞きますか？そこエレベーターがあるか

どうか．そしたら別にどこでもいい？（中略）

じゃあ電話してエレベーターがあるか聞いてって、

それが第1優先事項？車椅子なんですけど入って

食べれますかってこと聞けばいいですか？

▶　分析

・介助経験年数が短く、論者との共有知識に乏しいが2択で答えられる質問を積極的に行う。

・ビジネスマナーを活かし、「何を書くか（What to do）」を提案する様子がみられた。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――通訳者b（経験年数3ヶ月）

36才・大学院卒・宗教法人事務職8年

件名：Re:後藤です

後藤先生

天畠大輔です。
失礼ですが、立命館大学大学院公共学の後藤玲子先生でよろしかったでしょうか。
といいますのも。私の知り合いに二人の後藤先生がいらっしゃるので、念のため確認させて頂きました。

まずは。メールアドレスのご変更のお知らせをありがとうございました。
登録させていただきます。

また、東京にいらっしゃるとのことで、ぜひご一緒に夕食を食べたいと思います。
私が空いているのは、9月13日火曜日なので、18時30分に三鷹駅南口の交番前で、二人の介助者とお待ちしております。

三鷹駅の近くのハルピンという中華料理屋さんで食べたいと思います。
ここは、餃子が美味しいと評判のお店です。
念のため、私の携帯番号をお知らせします。
天畠携帯080-・・・・。

それでは、当日楽しみにしています。

天畠大輔

結果――通訳者 c （経験年数10年）

28才・大学院卒・公園管理運営職2年

①戦略的誘導　②解釈的質問　③提案

▶　やり取り（所要時間：1時間20分）

c：（この時点で、メールの送り主を特定している）まず、論文進んでますか？には、頑張っております？進捗も教える？教える？今こんな状態ですっていう？

c：ある？前半？あ、か．か行のか、き、く、け「こ」？（中略）「こ、う、そ」構想発表会？に、たぶんいらっしゃった？構想発表会ではお世話になりましたって書く？（中略）ご意見を下さいましてありがとうございました．でOK？

c：後藤先生が、構想発表会の時にアドバイスくれたじゃない？そのことで、そのことも具体的に書く？大まかにありがとうございましたでいい？それとも具体的にあれあれの件についてはって書く？博士予備論文の発展性を聞いてくれたんだよね？あってる？（構想発表会の筆記録を）確認した方が良い？それであってるよ？博士予備論文はどんな風に発展していくんですか？って聞いてくれたから･･･このアドバイスについても少しだけ触れる？

論者：誰が行くの？

c：誰か一緒に行くのってこと？お店に？後藤先生と話す時はきっと博士予備論文とかの相談とかするからね．この機会を逃すまいということだね！（中略）じゃあ9月13日に博士予備論文のことを相談する機会がありそうなので出席できますかっていう風に論文担当の介助者にもお願いしようか．

▶　分析

・経験年数が長く、研究支援にも携わっていたため共有知識が豊富。

・論者が発したキーワードに対して「解釈的質問」や「提案」など積極的に働きかけがみられた。

・ｃの時のみ、論者から「構想発表会」というワードを伝えている。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――通訳者c（経験年数10年）

28才・大学院卒・公園管理運営職2年

件名：天畠です.

後藤先生

いつも大変お世話になっております。公共2回生の天畠です。
この度はご連絡有り難うございます。こちらは後藤玲子先生のアドレスでよろしかったでしょうか。
早速メールアドレスを登録させて頂きます。
先日の構想発表会では、貴重なご意見を頂きまして有り難うございました。
特に、博士論文への発展性については、私も重要なことだと考えておりましたので、
アドバイスを参考にさせて頂きます。

さて、お仕事で東京にいらっしゃるとのこと、ご連絡有り難うございます。
是非私もお会いしたいと思います。私は9月13日（火）が空いております。
先生のご都合がよろしければ、夜ご飯をご一緒できれば幸いです。

三鷹には美味しいお店が沢山有りますが、
「餃子のハルピン」というお店がオススメです。
肉厚で、ジューシーな本場の餃子が有名だそうです。
お店のホームページです. http://www.harpin.jp/index.html
こちらのお店でよろしければ、18：30に三鷹駅南口の交番の前に待ち合わせでいかがでしょうか。
（交番は南口の改札を出て、歩道橋を降りた１階にあります。）

私の携帯は番号：080-***-****携帯アドレス：********@docomo.ne.jpです.
何かありましたら携帯までご連絡下さい。当日お話し出来るのを楽しみにしております。
お返事お待ちしております。

天畠

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――通訳者ｄ（経験年数5年）

22才・福祉系大学卒・障がい者施設の常勤職員（現職）

①戦略的誘導　②解釈的質問　③提案

▶　やり取り（所要時間：1時間15分）

d：差出し人？読む？ある？あ、か？あ？

あ、い？あ、か、さ、た、な．な？な、に．に？

「い、に、し、や、る」？R.G.って、お～．

なるほど．（中略）イニシャルR.G.、イニシャル

R.G.だから、そういうことか．後藤玲子先生って

こと？

d：「ろ、ん、ぶ、ん」？について？あって

る？ご指導していただきたい？先生だっけ？どっち

でもいい？お目に掛かって、論文の指導をしていた

だきたいです、でいいの？していただけたらと思い

ますのほうがいい？していただきたいですでいい？

していただけたらと思います？

d：ハルピンっていう店、興味ある？夜

1000円から1900円．飲んで食べて2000円台、

とりあえず見てみる？高いもんね．水餃子とか焼き

餃子があって寝間着で行けて･･･おいしい貴重なお店、

寝間着で行けるお店を先生と行くかっていったら

行かないよね？行かないね．たぶん、ここやめた

ほうがいい気がする．やめとく？

▶　分析

・論者と個人的な交際関係にあったこと、経験年数が長いことから共有知識が豊富で積極的な先読みがみられた。

・店の選択に強い介入がみられ、最終的に「何を書くか（What to do）」に大きな影響を与えただけでなく、論者の自己決定である「なにをするか（What to do）」を揺るがす提案をした。

・「どのように書くか（How to do)」は、論者に詳しく確認していた。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結果――介助者ｄ（経験年数5年）

22才・福祉系大学卒・障がい者施設の常勤職員（現職）

件名：天畠です。

後藤様

天畠大輔です。
メールアドレス変更のご連絡有り難うございます。
後藤玲子先生でよろしいでしょうか？東京にいらっしゃるんですね。
是非お目にかかって、論文の指導をしていただけたらと思います。

お店についてですが、
三鷹駅南口徒歩6分程度のところに、中華料理の「桃亭」というお店があります。
そこは広東料理なのですが、中華料理はお好きでしょうか。
日程についてですが9月13日（火）があいております。
19時30分に、三鷹駅南口１階の交番前で待ち合せはいかがでしょうか。
（小さな改札を出て、左手にエレベーターがあります．そのエレベーターを下がると目の前が交番です。）

私は夕方以降空いておりますので、時間は後藤先生にお任せ致します。
当日の連絡のため、携帯電話の番号とアドレスを教えていただけますでしょうか。
私の携帯の連絡先は以下の通りです。
TEL　080-***-****
アドレス　*******@docomo.ne.jp
お手数ですが、登録お願い致します。
当日は、介助者を２人連れて行く予定です。
返信お待ちしております。
お会いできるのを楽しみにしています。

本文終わり．以下署名

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

研究の問い・目的

- 問い

「発話困難な重度身体障がい者」である論者の文章作成の実態とはいかなるものか？

- 目的

論者の文章作成過程における介助者との「あ、か、さ、た、な話法」を用いた相互行為を詳細に読み解くことで、「発話困難な重度身体障がい者」である論者の自己決定を概念的に分析すること。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

考察――天畠大輔における文章作成の実態

複数の異なる主体が折り重なり、1つの文章を作り上げるという**協働作業**[2)]が存在。

【協働作業の３つの技法】の傾向

①戦略的誘導　論者→通訳者

コミュニケーションの軌道修正をさせ、文章を紡いでいく手法。解釈や提案を引き出す。

4人に共通して見られたが、**経験年数の短い者には多く、長い者には少ない傾向があった**。

②解釈的質問　通訳者→論者

先読みによって論者の意図を推測しながら、通訳者の解釈で質問を投げかけていく手法。

経験年数の短い者は細かい事実確認をし、長い者は単語より文章の先読みをする傾向にあった。

③提案　通訳者→論者

論者の自己決定や行動の仕方に対して、通訳者から選択肢の提案をする手法。

経験年数の長い者は、論者との共有知識や自身の職歴から、提案を積極的に行う傾向にあった。

一方で、経験年数の短い者でも、社会人経験から提案を行う場合もあった。

2）藤村正之は、均質性・同質性の高さを含む「共同性」と人々の生活を支える異なる行為や活動の分担の絡まりに根ざした「協働性」と区別している（藤村2013）。本研究では障がい者と介助者という、立場に差異のあるものたちが連携して障がい者の自己決定がなされていることに着目しており、「協働」という語句を使用する。
藤村正之、2013、「個人化・連帯・福祉」藤村正之編『協働性の福祉社会学――個人化社会の連帯』東京大学出版会、1-26.

考察――介助者手足論とは異なる自己決定概念

介助者手足論

- 1970年代当時：障がい者が健常者と同じように主体的な存在であることを認めさせるためのスローガン。
- 現在：日常のケアの中で、介助者が、当事者の手足となり、その指示通りに行動することを指すのが一般的。

天畠大輔の場合

- 「弱い主体」であることを選び取り、パターナリズムをある程度許容し、通訳者による先読みや解釈・提案を促進している。

「強い主体」としての障がい者 ⇔ 「弱い主体」としての障がい者

脱パターナリズム ⇔ 個別的関係性の上に成り立つパターナリズム

・各通訳者との共有知識に合わせて、論者からの伝え方を変える。
・通訳者からの解釈・提案を引き出す働きかけ。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

※本動画は2016年撮影のもので、現在は大学院を修了しています。

考察――「With who」の重要性

場面や通訳者との関係性によって「What to do」と「How to do」の領域は、論者と通訳者の間で流動的に行き来する。

- 「What to do」は「With who」に大きく影響を受ける。論者の場合は「With who」によって「What to do」が決定される傾向にある。
- 「What to do」と「With who」が絡み合って、文面（How to do）に出てくる。
- 経験年数が多い通訳者ほど、「何を書くか（What to do)」だけでなく、「何をするか（What to do) 」にまで介入し、論者の自己決定に影響を与えていた。
- 当事者と通訳者の間に共有知識がないと「with who」は意味をなさない。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔

結論・今後の課題

- **問い**

「発話困難な重度身体障がい者」である論者の文章作成の実態とはいかなるものか？

- **結論**
  - 論者の文章作成においては、複数の異なる主体が折り重なり、1つの文章を作り上げるという**協働作業**の実態があった。戦略的誘導や解釈的質問、提案においては通訳歴の長さによる違いが現れ、特に提案については、通訳歴の長い者や社会人経験のある者から積極的に行われている傾向がわかった。
  - 論者の自己決定のあり方は、介助者手足論とは異なり、「弱い主体」であることを選び取り、パターナリズムをある程度許容し、通訳者による先読みや解釈・提案を促進していた。
  - 「What to do」と「How to do」への介入も見られたが、論者の自己決定の質を高める要因として 「With who」という概念–誰と自己決定を行うかが、立ち上がってきたことが挙げられる。

- **今後の課題**
  - 当事者側のジレンマは分析が進んできているが、通訳者側のジレンマも併せて明らかにしていく必要がある。

日本学術振興会特別研究員PD/中央大学
天畠大輔